



立山カルデラの砂防

2026年度企画展 -120年の時を刻む砂防の物語-

2026年7月18日(土)～10月4日(日)

企画展観覧料
無料

会場 立山カルデラ砂防博物館 エントランスホール・企画展示室



山と川と人のミュージアム
富山県 立山カルデラ砂防博物館
TATEYAMA CALDERA SABO MUSEUM

〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺字ブナ坂68
TEL 076-481-1160 TEL 076-482-9100
<https://www.tatecal.or.jp/tatecal/index.html>



立山砂防事務所蔵



立山砂防事務所蔵



2026年度
企画展

立山カルデラの砂防

-120年の時を刻む砂防の物語-

期間:2026年7月18日(土)～10月4日(日)

1858年(安政5年)の「安政の大災害」以降、氾濫を繰り返すようになった常願寺川。「日本一の暴れ川」と呼ばれ、立山カルデラから流出する土砂が原因で天井川となり洪水を繰り返してきました。明治時代に入ると、オランダ人技師デ・レイケの指揮の下、大規模な常願寺川改修工事がはじまります。それでもなお続く暴れ川常願寺川から人々の命を生活を守るため、1906年(明治39年)には立山カルデラで砂防工事が始まりました。立山カルデラで砂防工事がはじまり今年で120年。写真資料などから砂防工事について振り返ってみます。

1858(安政5年)	安政の大災害
1883(明治16年)	富山県の誕生 オランダ人技師ムルデルが来富し、県内の河川調査を行う
1891(明治24年)	常願寺川出水 オランダ人技師デ・レイケによる県内河川調査 常願寺川改修工事はじまる(～明治26年)
1906(明治39年)	富山県による砂防工事はじまる
1914(大正3年)	台風による湯川水源地崩壊
1919(大正8年)	常願寺川出水。湯川第一号堰堤崩壊(大正9年～3ヵ年計画で復旧)
1922(大正11年)	豪雨により立山カルデラ多枝原谷崩壊。湯川第一号堰堤再度崩壊
1926(大正15年)	国による立山砂防工事はじまる。初代所長に赤木正雄が就任
1936(昭和11年)	本宮砂防堰堤竣工
1938(昭和13年)	泥谷砂防堰堤群竣工
1939(昭和14年)	白岩砂防堰堤竣工
2009(平成21年)	「白岩堰堤」、重要文化財に指定
2017(平成29年)	本宮堰堤・泥谷堰堤を追加し「常願寺川」砂防施設として重要文化財に指定



明治24年 常願寺川改修工事



大正12年 富山県による砂防工事(西三ノ谷第十五号堰堤)
立山砂防事務所 所蔵



昭和12年 国による砂防工事
(白岩堰堤左岸袖部第一導水堤継ぎ混泥土工事及び堰堤全影)
立山砂防事務所 所蔵

石積み体験してみよう!



実物大の西ノ谷堰堤レプリカで、当時と同じように実際に石積み体験をしてみよう。

関連イベント情報

「西五ノ谷の石積み堰堤見学ツアー」

(健脚者向け・山岳ガイド同行)

体験学習会(黎明期の砂防探訪コース)で訪れる西ノ谷堰堤よりもさらにカルデラの奥地にある西五ノ谷の石積み堰堤を目指します。

10月14日(水)

集合・解散: 博物館

※予備日10月15日(木)

※申し込み方法や参加費などツアーの詳細は8月中旬までに博物館HPにてお知らせします。



山と川と人のミュージアム
富山県 立山カルデラ砂防博物館
TATEYAMA CALDERA SABO MUSEUM

〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺字ブナ坂68

TEL 076-481-1160 FAX 076-482-9100

ホームページアドレス <https://www.tatecal.or.jp/tatecal/index.html>

◆会場: 立山カルデラ砂防博物館 エントランスホール・企画展示室

◆開館時間: 9:30～17:00(入館は16:30まで) ※7月18日～8月31日、9月19日～23日は9:00開館

◆休館日: 月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日 ※夏休み期間(7月18日～8月31日)は無休

◆企画展観覧料: 無料

◆常設展観覧料: 大人500円、大学生以下・70歳以上無料



●アクセス

